

セーフティ近畿

誰もが安心して暮らせるまちづくり

私たちの暮らしを一瞬にして破壊する災害。その被害から大切な命や財産を守り、安全で安心して暮らせるまちにするためには、近年全国各地で頻発している自然災害や阪神淡路大震災の教訓を活かしたまちづくりを進めることが重要です。また、少子高齢化社会に向け、生活空間のあらゆるところでバリアフリー化を図り、高齢者などが安心して居住できる環境の整備が必要です。

様々な災害が発生しやすい近畿の地勢

近畿地方は、地形が複雑で、気候も北部と南部では大きく異なるため、多様な自然環境に恵まれている反面、毎年のように各地で災害が発生し、地域に深刻な被害をもたらしてきました。

台風や梅雨前線などに伴う集中豪雨により、平野部では河川の氾濫、山間部では土砂災害が発生するほか、北部の積雪寒冷地では冬季の交通障害により、人々の暮らしや様々な物資の輸送に支障が及びます。近年では、局地的な短時間豪雨の頻発や、記録的な豪雪など、災害を取り巻く環境は厳しくなっています。

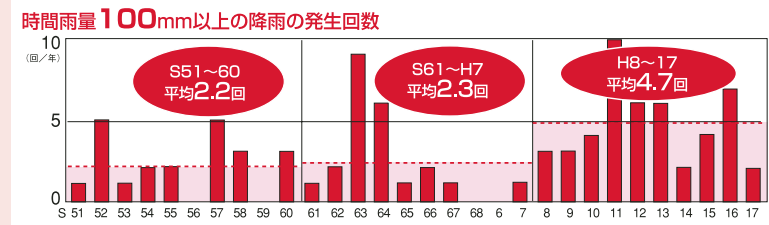
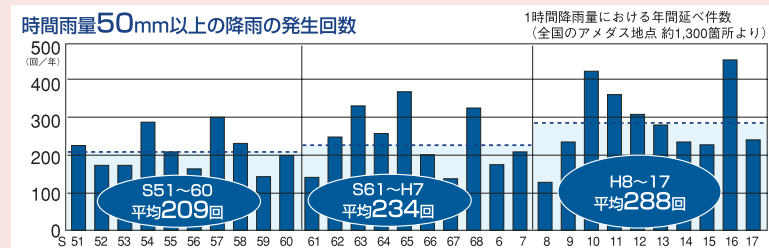
近い将来必ず発生すると言われていた東南海・南海地震では、近畿地方の全域にわたり強い揺れを生じるとともに、大規模な津波が紀伊半島から大阪湾にかけての沿岸部を襲い、家屋の倒壊、道路の寸断や孤立集落の発生など、広い範囲で大きな被害が生じると想定されています。

また、わが国固有数のゼロメートル地帯となっている大阪湾沿岸部には、多くの人口と資産が集積する大都市が形成されており、淀川や大和川など都市部を流れる河川の氾濫や高潮による浸水被害は甚大なものと考えられます。



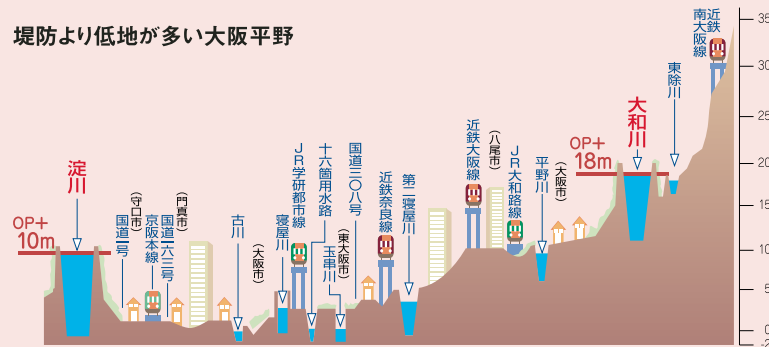
平成16年10月 台風23号による円山川の破堤(豊岡市)

頻繁する集中豪雨



資料:気象庁資料より 1時間降水量の年間延べ件数(全国のアメダス地点約1,300カ所より)

堤防より低地が多い大阪平野



近畿地方で懸念される大地震



雪害に見まわれやすい地域

平成18年 豪雪による被害(福岡市)

地震

平成7年1月 阪神・淡路大震災(神戸市)

高潮

昭和25年 太平洋台風により発生した高潮(大阪湾及び福島区)

土砂災害

平成16年10月 台風23号により発生した土砂災害(宮崎市)

津波

昭和21年 昭和南海地震により発生した津波(田辺市文里港)

津波の恐れがある地域

社会の変化と災害の危険性の増大

急速に進む高齢化に配慮した都市整備

我が国の高齢化率(65歳以上人口の比率)は平成27年(2015年)には26%になり、4人に1人が高齢者になると見込まれています。一人暮らしの高齢者比率も増加しており、特に近畿では全国や首都圏に比べても比率が高くなっています。また、隣組等の共助の意識の薄れとともに高齢者が被災する事例が増加しています。

地震・火災などに不安な都市構造 古い伝統的な町並みの耐震性

老朽化した建物は耐震性が低い上に、住宅が密集している地域でひとたび火災が発生すると急激に燃え広がる可能性があります。そうした災害に都市基盤が未整備のまま住宅が密集している地域は全国で約25,000haあり、そのうち大阪には約6,000ha存在しています。また、京都や奈良には世界に誇る貴重な文化財と伝統的な町並みが多く残っており、これらを災害から守ることも課題です。



古い街並み(京都市東山)